

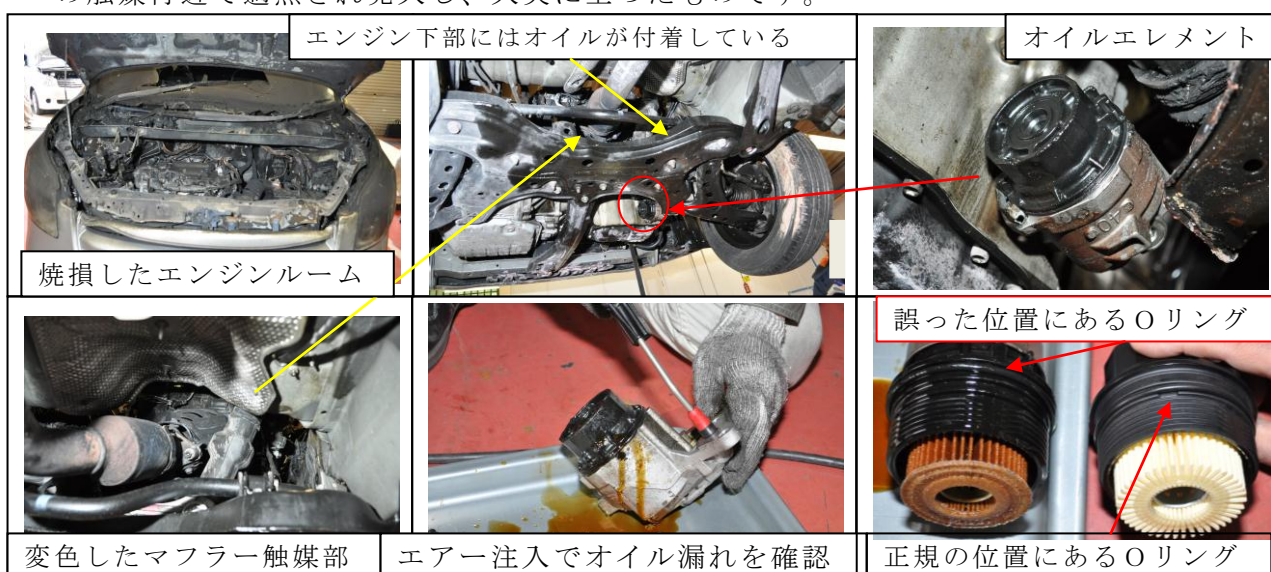
# オイルフィルターに起因する火災事例

## 火災概要

走行中の車両のエンジンルームから出火した車両火災で、車両の運転手が火災に気づき、119番通報が行なわれています。付近住人による初期消火並びに駆け付けた消防隊の放水により鎮火した火災です。

## 原因概要

現場の状況と後日実施した現場検証から、エンジン下部に設置されているオイルフィルタキャップ付近からのオイル漏れにより、漏れ出したエンジンオイルがマフラーの触媒付近で過熱され発火し、火災に至ったものです。



マフラーの触媒付近の温度は走行中、500℃～700℃に達すると考えられ、エンジンオイルの発火点は320℃～350℃です。

また、出火原因を調査した結果、オイルエレメントの交換作業時に、取り付けしたオイルフィルタキャップのOリングが誤った位置に取り付けられている状況が見られました。環境やオイルエレメント交換を安価なものにする為、「カートリッジタイプ」に替わり、更に現在では中のフィルターのみを交換する「中身交換タイプ」が主流になりつつあります。

オイルエレメントの交換にあっては、使用者がマニュアル等を参考にすれば自身で容易に作業できるものであることから、ユーザーが交換する際には下記の通り取り付け作業時に注意が必要です。

### (類似火災の防止)

- ① 取り付け作業時には取り扱い説明書を厳守し、確実に行うこと。
- ② 車両運行前には、定められている車両点検を必ず行うこと。
- ③ 車両運行時に異変を感じたら直ぐに車両を停車し、最寄りの修理業者へ修理を依頼すること。

…火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。…